

乳 幼 児 看 護 学

連 載



は じ め の 一 歩



第 26 回

看護とアタッチメント①

鈴木香代子 Suzuki Kayoko *1

廣瀬たい子 Hirose Taiko *2

*1 東京有明医療大学看護学部助教

*2 同特任教授

はじめに

長い間乳幼児看護について連載を続けてきましたが、最後は数回にわたって小児看護の基礎となるアタッチメントについて紹介していきます。小児看護の看護師として日々子どもと家族の看護を提供している人、また小児看護を教えている人、研究している人は皆アタッチメントという用語をよく知っており、さまざまに活用していると思います。本連載では、第19回に岡光が「愛着」について解説しました¹⁾。

最後の連載では、これまでのアタッチメントの理解をさらに拡大し、さらに臨床で活用できるような内容にしたいと思います。

SSP 講習会への参加

つい先日、2017年10月25日から11月11日まで、10月30日～11月5日までの中休みを含んで Strange Situation Procedure 講習会に参加しました。Strange Situation Procedure (SSP) は、Mary Ainsworth によって考案され、アタッチメントのタイプ分類法のゴールドスタンダードとして世界中で用いられています²⁾。この SSP を用いて解釈されるアタッチメントのタイプ分類法のうち、Dタイプの分類には研究者によって見解の相違があることを知ったのは最近のことでした。また、A・B・Cタイプの分類についてもしかり、ということ

を知ったのも最近のことでした。その件については、今後、追々述べていきます。

さて、筆者ら2名が参加した SSP 講習会は、オーストラリア東南部ニューサウスウェールズ州のシドニーから列車で西に約2時間30分の Katoomba という町で開催されました。世界遺産にもなったブルーマウンテンがあることから、日本人旅行者がよく訪れる観光地でもあります。この町のホテルが会場で、11名の受講者と3名のファシリテーター、そして講師の Patricia Crittenden 博士というメンバーが集まりました。職種は、臨床心理士、ソーシャルワーカー、児童精神科医、看護師・保健師、発達心理学者でした。それなりの臨床経験や教育・研究経験をもつ熟練者ばかりでした。筆者らは日本からですが、1名は中国本土から、米国からの1名 (Crittenden 博士を含めると2名) のほかはオーストラリアからでした。

前半の5日間は典型的な A・B・Cタイプについて学び、1週間の間隔をおいてさらに6日間の講習が実施されました。後半の講習会では、アタッチメント行動の表れ方が非典型的であったり、タイプ分けが難しい母子の観察法を学びました。

この SSP の対象児の月齢は、11～15カ月までとされています。Crittenden 博士は、安定型の Bタイプを、B1、B2、B3、B4、B5に分類しています。ちなみに Crittenden 博士のアタッチメント分類に Dタイプは存在しません。その理由については次回以降で説明します。

不安定回避型のAタイプを、A1, A2, A3, A4に分類し、不安定抵抗型のCタイプを、C1, C2, C3, C4に分類しています³⁾。それぞれのタイプについても今後述べていきます。

初日は午後から開始となり、Crittenden 博士から SSP 講習会の導入編を聞いた後は、SSP のビデオを観ながら、コマ送りで母子のアタッチメント行動とその機能について説明を受けました。翌日からは、午前中に3名のファシリテーターのもとに3グループに分かれ、補助的指導を受け、母子の SSP ビデオを観察しながらアタッチメントタイプを理解する訓練を受け、午後からは一堂に会して Crittenden 博士の指導を受ける方法で講習会が進行しました。もちろん午後も母子の SSP ビデオを徹底的に観察し、アタッチメント行動とその機能を読み解き、アタッチメントタイプを理解するというものです。

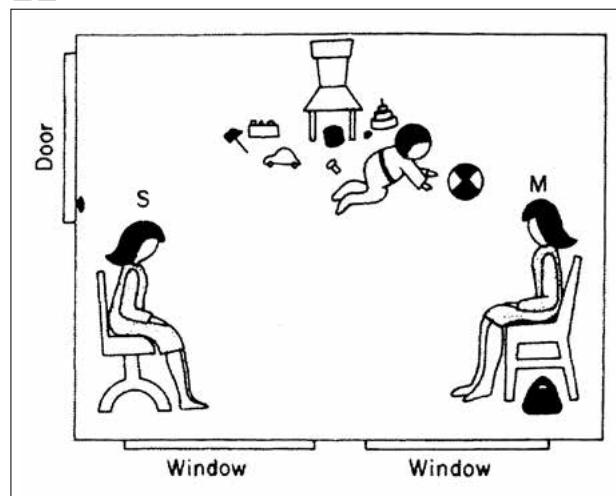
新規場面観察(SSP)の方法

SSP ビデオがどのようなものなのかをイメージするためには、SSP の方法を説明する必要があります。実際にその実験場面を見たことがある人は少ないのではないのでしょうか。

1. 部屋の構造(図1)⁴⁾

ハーフミラー(マジックミラーとも呼ぶ)が部屋の同一壁に2カ所ついた、9フィート(2m74.32cm)四方の広さの部屋を用いる。ハーフミラーに面して観察室が隣接しており、ハーフミラーを通して実験室を観察できる。このハーフミラーは実験室からは鏡として見えるようになっている。図1に示されているように、実験室には母親用とストレンジャー用の椅子、および子ども用の椅子も用意されている。また、その3つの椅子の中央には11~15カ月の発達段階に合った玩具が置かれている。玩具の下には、玩具全部を載せられる大きさのマット(ラグ)が敷かれている。親子とストレンジャーの行動を撮影するため、遠隔操作可能なビデオカメラが室内に設置されていることが望ましいが、ない場合には、ハーフミラーの裏側から、もしくは子どもに気づかれないよう実験室内に姿を隠す工夫を施してビデオカメラを設置する。

図1 SSP 観察室の設定



(Ainsworth S, Blehar MC, Waters E, et al : Patterns of Attachment : A Psychological Study of the Strange Situation. pp 32-37, Psychology Press, New York, 2015. より引用)

2. 必要な人材

被観察者として子どもと母親(父親でもよい)が一組、ストレンジャー役の女性(過去に一度もあつたことがない人)、手続き進行を図るマネージャー、ビデオ撮影者が必要です。マネージャーは SSP の進行を図るだけでなく、各エピソードの時間(3分間)を測定し、エピソードの移行時間はドアをノックすることで知らせる役割がある。

3. 玩具

SSP 対象児の月齢は11~15カ月とされているので、この発達段階に応じた玩具を13~15種類ほど、中央に敷いたマット(ラグ)の上に置く。

4. 新規場面(Strange Situation)の設定

1)エピソード1

母親、乳幼児、マネージャーがいる。マネージャーに誘導されて実験室に母子が入室する。マネージャーは母親に指示を与えたら部屋を出る。

2)エピソード2

母親はストレンジャー用の椅子と母親用の椅子の間



表① SSP エピソードの要約

エピソード	人物	時間	出来事の要約
1	子ども, 母親 マネージャー	30秒間	観察者(マネージャー)が観察室に母子を招き入れ, 部屋を出ていく。
2	子ども, 母親	3分間	母親は子どもに遊びを促し, 椅子に座って雑誌を読む。子どもが母親を誘った場合には応じるが積極的にかかわらない。
3	子ども, 母親 ストレンジャー	3分間	ストレンジャーが入室して自己紹介し, 母親に子どもの名前や月齢を訪ねるような, 差しさわりのない会話をする。1分30秒後にドアのノック音が鳴り, ストレンジャーは子どもと遊ぶ。
4	子ども ストレンジャー	3分間	ドアのノック音が鳴り, 母親が部屋を出る。ストレンジャーは子どもと遊びを続けるが, しばらくすると椅子に座る。子どもが泣いている場合には抱き上げてなだめ, 子どもが泣きやまなければ, 30秒経過後母親が入室する。(第1分離場面)
5	子ども, 母親	3分間	母親の入室と交代してストレンジャーは静かに部屋を出る。母親は子どもをなだめたり, 遊び, 椅子に座る。(第1再会場面)
6	子ども	3分間	ドアのノック音が鳴り, 母親は部屋を出る。子どもが泣きやまなければ30秒経過後ストレンジャーが入室する。(第2分離場面)
7	子ども, ストレンジャー	3分間	ストレンジャーが入室。子どもをなだめ, 落ち着いたら椅子に座る。子どもが泣きやまなければ30秒経過後母親が入室する。
8	子ども, 母親	3分間	母親が入室。ストレンジャーは静かに部屋を出る。(第2再会場面)

(Crittenden P : A Guide to the Ainsworth Infant Strange Situation with Expansions & Modifications. Copyright, Patricia Crittenden. 2015./Ainsworth S, Blehar MC, Waters E, et al : Patterns of Attachment : A Psychological Study of the Strange Situation. Psychology Press, New York, 2015, pp 32-37. より引用・改変)

に, 玩具に面して子どもを座らせる。

そのあと, 母親は自分用の椅子に座り, 椅子に置いてあった雑誌を読む(もしくは読むふりをする)。子どもは部屋をハイハイで, もしくは歩行で動き回るか, 玩具で遊ぶ。母親が積極的に子どもにかかわるのではなく, 必要な場合にのみ子どもに応じる[3分間]。

3)エピソード3

ストレンジャーが入室し, あいさつする。ストレンジャーは母親と差しさわりのない会話をする。子どもの名前と月齢を聞いてくれると役立つ。1分30秒経過したところで, マネージャーがドアをノックして, ストレンジャーに子どもと遊ぶよう促す[3分間]。

4)エピソード4

母親は3分間経過後に, マネージャーがドアをノックする音を聞いてから部屋を出ていく。母親が出るときには, 子どもと離れるときにいつもするように出ていくよう, マネージャーが事前に話しておく(例えば, トイレ

に行くとか, 用事を足しに行くなどと言って)。ストレンジャーは子どもと少し遊んでからストレンジャー用の椅子に座る。もし子どもが泣き出したら, ストレンジャーは子どもをなだめるが, 母親についての説明はしない。ストレンジャーは子どもから望まれたことに応じるが, 協力し合う遊びはしない。子どもの不安が高じてなだめることが不可能になった場合には, 30秒以上放置せず母親に戻ってもらう[3分間]。

5)エピソード5

母親が部屋に戻る。ストレンジャーは静かに出ていく。母親が入室するときには子どもの名前を呼びながら入室するよう, 事前にマネージャーから話しておく。母親が入室後ドアのところで立ち止まり, その後椅子に座る。子どもが抱っこを求めるような場合には抱き上げて慰め, 子どもに遊びを促す。それが必要なければ, すぐに椅子に座る[3分間]。子どもが落ち着くまでに時間がかかる場合には3分以上かけてもよい。

6)エピソード6

母親は、エピソード4のときと同様の方法でドアのノック音が聞こえたら部屋を出ていく。子どもの不安が高じて、なだめることが不可能になった場合には30秒以上放置せず、ストレンジャーに入ってもらう[3分間]。

7)エピソード7

ストレンジャーが入室する。ストレンジャーは母親についての説明はせず、子どもに不安が高じて泣くなどの興奮状態が生じていれば、抱き上げるなどの方法でなだめる。なだめることが不可能になった場合には30秒以上放置せず、母親に入室してもらう[3分間]。

8)エピソード8

母親がエピソード5のときと同様の方法で部屋に戻り、子どもをなだめ、遊ぶ[3分間]。

子どもが落ち着くまでに時間がかかる場合には、3分以上かけてもよい。

9)まとめ

この方法をまとめたのが、表1²⁾³⁾です。なぜこのよ

うな場面を設定しなければならないのかを知ることは、アタッチメントの本質の一面を理解することにつながります。SSPは、乳幼児が中程度の脅威や不安を感じたときにアタッチメント対象から保護や慰安を引き出す方法を短時間でアセスメントする方法です。乳幼児がアタッチメント対象から保護や慰安を引き出す方法には個人差があり、Ainsworth³⁾はその違いをパターン別に、A・B・Cタイプに分類しました。そして、アタッチメントタイプの違いがなぜ生じたのか、またこのタイプの違いが乳幼児の発達に及ぼす影響を明らかにしようとしたのです。

【文 献】

- 1) 岡光基子：ファミリーパートナーシップモデルに基づいた産前・産後の親子支援について。小児看護 40(6)：763-767, 2017.
- 2) Santrock JW：Life-Span Development. McGraw-Hill Education, New York, 2014, pp 193-195.
- 3) Crittenden P：A Guide to the Ainsworth Infant Strange Situation with Expansions & Modifications. Copyright, Patricia Crittenden. 2015.
- 4) Ainsworth S, Blehar MC, Waters E, et al：Patterns of Attachment；A Psychological Study of the Strange Situation. Psychology Press, New York, 2015, pp 32-37.

乳幼児看護研究所主催 講習会のお知らせ

育児支援のスキルアップ講習会

■日時・場所：

①札幌会場：2018(平成30)年3月17日(土)～19日(月)9：00～17：00 天使大学(北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30)

②東京会場：2018(平成30)年3月21日(水)～23日(金)9：00～17：00 東京有明医療大学(東京都江東区有明2丁目9-1)

■費用：

①3万円 ②4万円 (各会場とも早期割引あり)

■講師：

Catherine Jane Martin (米国臨床心理士：看護師資格所持)
※逐次通訳あり

いずれの講習会も詳細・申し込みは乳幼児看護研究所ホームページ <https://www.infant-nursing.net/> をご覧ください。

アタッチメントと精神病理

■日時・場所：

2018(平成30)年5月11日(金)16：00～20：00、12日(土)～14日(月)10：00～17：30 東京慈恵会医科大学西新橋キャンパス(東京都港区西新橋3-19-18)

■費用：6万円(早期登録5万円)

■講師：

Patricia Crittenden (Family Relations Institute 所長), 三上謙一氏(北海道教育大学保健管理センター准教授)
※同時通訳あり

information